

『経典』に学ぶ

三帰依

経文

みづか ほとけ き え たてまつ
自ら仏に帰依し奉る

まさ ねが はつ しゅじょう とも だいどう たいげ むじょうい おこ
当に願わくは衆生と共に 大道を体解して無上意を発さん

みづか ほう き え たてまつ
自ら法に帰依し奉る

まさ ねが はつ しゅじょう とも ふか きょうぞう い ち え うみ こと
当に願わくは衆生と共に 深く経蔵に入って智慧海の如くならん

みづか そう き え たてまつ
自ら僧に帰依し奉る

まさ ねが はつ しゅじょう とも だいしゅ どうり いっさいむげ
当に願わくは衆生と共に 大衆を統理して一切無礙ならん

現代語訳

「^{わたし}私たちは、^{うちゅう}宇宙の^{だいせいめい}大生命である^{ほとけ}仏さまに帰依いたします。そして、すべての^{ひと}人たちとともに、^{うちゅう}宇宙の^{しんり}真理・^{ほう}法を^{たいとく}体得し、^{さと}悟りの^{きょうち}境地に達することを^{せいがん}誓願いたします。

^{わたし}私たちは、^{ほとけ}仏さまのお説きになった^{おし}み教えに^{きえ}帰依いたします。そして、すべての^{ひと}人たちとともに、^{とうと}尊い^{おし}み教えの奥にある^{こんぽん}根本^{しんり}真理をつかみ、^{たいかい}大海のように^{ひろ}広いほんとうの^{ちえ}智慧を得ることを^{せいがん}誓願いたします。

^{わたし}私たちは、^{しんこうしゃ}信仰者の^{けつごうたい}結合体（僧＝サンガ）に^{きえ}帰依いたします。そして、^{ねが}願わくは^よ世の^{ひと}人びとをすべて^{なかま}仲間にし、^わ分けへだてなく^{むつ}睦み合い、その^もサンガを盛り上げ、^{ぜんしん}前進させていくことを^{せいがん}誓願いたします」

^{きえ}帰依 ^{そんざい}その存在を^{ぜったいてき}絶対的なものと^{しん}信じ、^{こころ}心のよりどころとし、すべてを^{まか}お任せすることです。

意味と受け止め方

仏教徒の誓い

仏・法・僧の三宝に帰依することは、釈尊ご在世当時から、仏教教団に入る第一の条件として大事にされてきました。三帰依を唱えること、すなわち三つの心構えをしっかりと守る不動の決意を持つことによって、釈尊教団への入門が許されたのです。なぜなら、三宝こそが仏道を歩む上での根本的な支柱となるからです。

私たちが三帰依を唱えるということは、唱えるたびに「仏さまの弟子とならせていただきます」と宣誓し、「サンガのみんなと一緒に仏道を歩ませていただきます」と誓いを立てることです。三帰依は、そうした気持ちを込めて読み上げたいものです。

仏の慈悲に抱かれて

仏とは、すべての存在を生かす、根源の大いなるいのちです。いつ、いかなるときも、仏さまは親として私たちを無条件の絶対の愛情で見守り、はぐくみ、成長を願ってくださっています。

ところが、日々の生活のなかでは、楽しいことばかりが起るわけではありません。むしろ、悲しいこと、辛いことのほうが多いのではないのでしょうか。しかし、仏さまは、それらすべてをとおして私たちを向上させ、真の救い(悟り)に導いてくださいます。楽しいこと、悲しいこと、辛いことなどすべての出来事のなかに、仏さまの広く深い慈悲が込められているのです。

純粋に仏に帰依すると、このような「すべての現象が持つ真実の価値」が見えてきます。そして、そこから、どんな苦難をも乗り越えていく勇気と力がわいてくるのです。

すべては法のごとく

仏教の根本原理は、三法印です。それは、諸行無常(すべてのものごとは絶えず変化している)、諸法無我(すべてのものごとは関係し合っていて、他と切り離された我はない)、涅槃寂靜(無常と無我を悟ることで迷いの消えた安らぎの境地が得られる)という三つの教えです。

この三法印の神髄が「無常」の法であり、その真理に基づき、この世のすべての存在

のありようをみると、「互いに関係し合いながら変化し、変化しながら関係し合っている」と、とらえることができます。これを縁起観ともいいます。

縁起の法を具体的に言うと、この世に存在するすべてのものごとには原因（因）があり、それが何かの機会や条件（縁）に会うことで、さまざまな結果として現われ（果）その結果は、必ず何かの影響を及ぼす（報）ということです。つまり、すべての現象やその働きは、因と縁が出会って起こる（縁起）のであり、因があっても縁に会わなければ、現象は生じません。

たとえば、美しい花を咲かせる植物の種があるとします。しかし、種（因）は土や水、光などの条件（縁）がなくては、芽を出し花を咲かす（果）ことができません。花が咲かなければ、見る人の心を和ます（報）こともできないのです。あるいは、心の底に貪欲（自己中心の執着心）が強くわだかまっている（因）場合に、ある人から自分の行ないについて、厳しく指摘された（縁）とします。すると、ほとんど反射的に怒りの心が生じ、相手を責める気持ちを抱いてしまう（果）のではないのでしょうか。その後の二人の関係は、表面は平静を装っていても、どこかギクシャクしたものの（報）になってしまいます。

しかし、指摘されたこと（縁）をありのままに見つめ、受けとめる智慧が自覚めていたら（因）どうでしょう。「またひとつ自分の足りないところを教えていただけた。ありがたい」と相手に対して感謝の思いがわいてくる（果）ため、相手との関係は、互いに心を磨き合うサンガとしてのすがすがしいものになってくる（報）はずです。

このように、この世のすべての現象は、真理・法のごとくに展開されます。ですから、法に帰依し、心や行ないを法のルールにそわせることができれば、自由自在に生きていけるのです。

サンガの支え

僧とは、僧伽（そうぎゃ＝サンガ）の略で、語源は「密接な結合」という意味です。釈尊は仏法を信じ、行じる人びとの和合の姿をこう呼ばれました。

私たちは日々、さまざまな誘惑や苦悩に直面します。そのようなときに、たった一人で悩みを抱えていたら、心は深く落ち込むばかりです。また、法を求めて修行していても、一人ではややもすると懈怠の心を起こしてしまいます。しかし、同じ教えを信奉するサンガの仲間がいれば、お互いに励まし合い、助け合い、教え合っていくことができます。苦悩を乗り越えることができるばかりか、苦悩をとおしてもっと前向きに生き、もっと信仰を深めていくことができるのです。

さらに、サンガの輪を大きく広げることで、自分一人が幸せになるばかりではなく、多くの人を幸せの道に導いてあげることができるようになります。

このように、根本的な支柱である仏・法・僧の三宝を心のよりどころとすると、何が起きてても大安心でいることができるのです。

事例から学ぶ

事例編では、各品に込められた教えを、私たちが日々の生活のなかで、どのように生かしていけばよいかを、具体的な事例をとおして考えていきます。

鈴木さん一家プロフィール

おばあちゃん・ミチコさん（75）... 佼成会の青年部活動も経験している信仰二代目会員

アキオさん（45）... 一家の大黒柱。ミチコさんの末息子

アキオさんの妻・タカエさん（38）... 婦人部リーダー。行動派お母さん

長女・ケイコさん（16）... やさしい心の持ち主の高校一年生。プラスバンド部

長男・ヒロシくん（9）... 元気いっぱいの小学三年生

三つの大きな宝

「ただいまー」

壮年部の夜間法座に出かけていたアキオさんが帰ってきました。

「お帰りなさい。久しぶりの法座はどうだった？」

妻のタカエさんが玄関に迎えると、アキオさんはニコニコして言いました。

「うん、やっぱり法座はいいね。きょうはほんとうに、いい話を聞かせてもらったんだよ」

アキオさんは居間のいすに座ると、タカエさんとおばあちゃんのミチコさんがお茶をいれてくれるのを待ってから、うれしそうに話しはじめました。

「法座でね、帰依三宝の話になったんだよ。なぜかという、ひがししぶの田中さんが、『ここ数か月というもの、仕事があまりにも忙しくて、家には寝に帰るだけだ。朝は五時半に家を出ないと間に合わない。ご供養をあげることもできないでいるため、信仰からどんどん離れていってしまう自分が不安でしょうがない』と言ったんだ」

「おや、その人の話は、最近のアキオ自身のことみたいじゃないか」

「そうなんだよ母さん。ぼくもハッとしましたよ。それで法座主の壮年部長さんがこう言ったんだ。『ご供養は、とても大切な行ですよ。ですから、忙しくてご供養があげられないことが心苦しいという田中さんの悩みは、とても尊い悩みだと思います。しかし、ご供養をあげさせていただくことよりも肝心なことがあるんです。それは、私たちが仏教徒が仏さまの弟子であるという自覚を持つことです。その自覚はどこから生まれるかという、< 私たちは仏さまに帰依します > < 仏さまが悟られた真理・法に帰依します > < 僧、すなわち仏法を信じ、行じる仲間・サンガに帰依します > という帰依三宝なんです。帰依というのは、その存在を絶対のものとして、心のよりどころにすることです。日々、この三つの大きな宝に帰依する気持ちを深めていくことで、仏教徒の自覚が強まり、職場でも通勤や帰宅途中の電車の中でも、人さまの幸せを願う菩薩行を喜んでさせてもらうことができるんですよ』ってね」

「なるほど。お経典のなかで『三帰依』を唱えさせていただくのは、仏教徒の自覚を日々新たにしていくために、とても大切なことだったのね」

「うん、さすがタカエさん。いいことを言うわ。そういえば、むかし組長のお役をいただくときに、教会長さんから教えていただいたことを思い出したよ。『教えを説いてくださり、私たちがよりよく成長できるようにと見守ってくださっている仏さまに帰依することと、仏さまが悟られた宇宙を貫く大真理・法に帰依することが大切なことは、仏教徒ならだれにでもわかることです。ところがお釈迦さまは、サンガに帰依することが最も大事であると説かれたんです。そのことを肝に銘じて、お役に励んでくださいな』。そうご指導いただいたのよ」

「お姑さんが言ったように、サンガに帰依することが最も大事だっていうことを、私も研修で教えてもらったことがあるわ。私たちは一人で法を求め続けたり、修行を深めることはむずかしいけど、同じ教えを信じる仲間がいれば、ともに支え合い、励まし合いながら学ぶことができる。そのためにもサンガは尊いんだっていうことだったわ」

みんなサンガ

「うん、法座でぼくがいちばん感動したのも、そのサンガのことなんだ。サンガっていうと、佼成会の会員をイメージするでしょう。ぼくもそう思っていたら、法座主さんは『それだけがサンガではないんです。会長先生のご法話で私も教えていただいたんですが、これからは教会サンガという、これまでのサンガの枠を広げて、地域で

ともに暮らすみんながサンガなんだという認識を持つことが重要です。職場や学校、地域社会が生活のベースなんですから、地域のなかで、ともに暮らすみんながサンガであると意識を換えて、それぞれの場でご法を実践することが、おのずと布教伝道につながっていくんです』って言われたんだ。ぼくはその話を聞いて、とても救われた思いと、勇気がわいたんだよ。この半年というもの、仕事に追われて教会にもあまり参拝できなかつたし、壮年部の活動にも参加できなかつた。それが田中さんと同じように心苦しかつたんだ。でも、ぼくは職場の人とお客さんというサンガの声を聞きながら、教えを職場で実践していけばいいんだ、それがぼくの帰依三宝なんだって思えたんだよ。田中さんも、ぼくと同じように感じたらしく、とても喜んでいたらよ」

「ありがたいお話がただけてよかったわね。私もPTAや福祉センターでの手話サークルで、急にお世話役を押しつけられたりして、不満を言っていたでしょう。でも、みんな何かを学び合い、教え合うサンガなんだから、お互いに敬い合い、それぞれの場で、まず自らが教えを実践することが大切なんだってことを、きょうは教えてもらったわ。アキオさん、どうもありがとう」

「いやそんな。でも明日から、ご供養のときには心をこめて『三帰依』を唱えさせていただいて、仏教徒の自覚を深めていこうね」